

タバココナジラミに対する薬剤の殺虫効果

表 タバココナジラミ成虫における補正死虫率

IRAC	供試薬剤	希釈倍率	A地区 トマト	B地区 メロン	C地区 インゲンマメ
3A	アグロスリン乳剤	2,000倍	－	0.4	－
4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	65.5	－	－
4A	ダントツ水溶剤	2,000倍	－	20.4	－
4A	ベストガード水溶剤	1,000倍	62.8	7.5	93.3
4C	トランスフォームフロアブル	1,000倍	28.3	15.2	62.2
5	ディアナSC	2,500倍	－	－	64.2
5	ダブルシューターSE	1,000倍	96.1	97.8	－
6	アグリメック	500倍	98.2	90.8	89.8
6	アニキ乳剤	1,000倍	29.3	41.5	65.1
6	アフーム乳剤	2,000倍	58.1	－	63.2
9B	コルト顆粒水和剤	4,000倍	40.2	12.3	－
9B	チェス顆粒水和剤	5,000倍	－	12.4	－
21A	サンマイトフロアブル	1,000倍	22.3	15.2	－
23	モベントフロアブル	2,000倍	8.3	－	－
28	ベネビアOD	2,000倍	6.1	－	－
28	ヨーバルフロアブル	2,500倍	－	12.2	－
30	グレーシア乳剤	2,000倍	54.1	36.5	70.7
34	ファインセーブフロアブル	2,000倍	16.1	2.3	87.7
36	エフィコンSL	1,000倍	100	－	95.8
対照(イオン交換水)			8.0	11.9	7.0

注1) 数値は補正死虫率(%)、対照の死虫率を考慮し薬剤効果のみを計算した値)を示し、大きいほど殺虫効果が高い。

なお、対照(イオン交換水)の数値は死虫率を示し、「－」は未実施を示す。

注2) A地区は処理4日後、B、C地区は処理3日後の値

注3) 薬液に浸漬したインゲン葉に成虫を接種して検定を行った。

タバココナジラミは多くの作物を加害する害虫であり、高知県においても様々な品目で問題となっています。近年、生産現場において殺虫剤の防除効果の低下が報告されていることから、殺虫剤に対する感受性の実態を明らかにするため、2026年の4～6月に県内の3地区のほ場からタバココナジラミ成虫を採集して、19剤について薬剤感受性検定を実施しました。

その結果、ダブルシューターSE、アグリメック、エフィコンSLは補正死虫率が高く、いずれの個体群でも高い殺虫効果を示しました。

一方、その他の剤では個体群による差が大きい場合や、いずれの個体群でも殺虫効果が低い場合が確認されました(表)。

これらの結果から、本県のタバココナジラミ成虫に対して多くの薬剤の殺虫効果が低下していることが明らかになりました。薬剤抵抗性の発達を抑えるために、系統(IRACコード)の異なる薬剤をローテーションで散布することや、物理的防除や生物的防除を組み合わせた総合的防除を実践することが重要です。

(昆虫担当 田村 悠 088-863-4915)